

歩いて実感

中津市長 奥塚 正典

本耶馬溪の^{ふるらかん}古羅漢、遠くから見ると奇岩がそびえたち、向こうの空が見える空洞は印象的で他ではなかなか見られません。駐車場から探勝道を歩き登っていくと^{あずまや}東屋のある^{うんせんくつ}雲僂窟まで約15分。一息ついて眼下を眺めると、先人がここで耶馬溪の絵を描き時を過ごした気持ちがよく分かります。さらに^{てんにんきょう}天人橋の下の古い木製^{かけや}懸屋を渡り鎖をつたって岩山を一周。さらに崖の細道を怖々進むと国東塔のある山頂に着きます。眺めは最高、下方の窟に石塔群も見えます。反対側に下山し集落に入っていくと霧囲気のある苔むす羅漢寺旧参道に出ます。

いよいよ羅漢寺へ、徒歩で登るもよしリフトに乗るもよし。歴史の重さ、自然の慈しみ、人間のあり様など古人が何か語りかけてくれそうです。人それぞれに思いが生まれます。真摯な心に立ち返り、自分の思考の狭さと時間軸の奥行きに気付かされそうでもあります。古羅漢や羅漢寺に案内すると皆さん想像を超える自然や人間の深みに出会い感動します。是非多くの方に散策いただきたいものです。

5月、世界温泉地サミットでウォーキングが実施され、市外・県外・国外を含め約240人のお客さんが青の洞門を出発地にオランダ橋、沈み橋を渡り、跡田川に沿い羅漢寺、古羅漢へと徒歩で「めぐる」・「食べる」体験コースを楽しみました。中津自慢のそば、中津からあげ、肉料理、野菜料理、スイーツ、焼酎などの馳走と地元の皆様のおもてなし、そして仕上げは中津市各地の温泉に「つかる」のです。



古羅漢

私も全日空の平子社長と一緒に中津の城下町から羅漢寺まで中津の魅力発信に努めた一日。多くのお客さんにどのように伝わったか。「時間が足りない。もう一度中津に来ます」は、お世辞でないこと確信です。